

令和6年度第1回松戸市公共施設再編整備推進審議会 議事要旨

日時：令和7年3月26日（水）10：00～10：50

場所：オンライン会議

出席者：柳澤 要委員（会長）、池澤 龍三委員、小川 早苗委員、渋谷 寛之委員
（欠席：藤村 龍至副会長、村山 顕人委員）

事務局：総合政策部 伊東部長
公共施設再編課 大村課長 ほか4名

○議事

- 1 小金原地域（モデル地域）における取組について（報告）
- 2 近年の公共施設をめぐる状況について（意見交換）

- 1 小金原地域（モデル地域）における取組について（報告）

事務局より、「資料1：小金原ワークショップについて」を用いて説明を行った。

<主な発言>

（委員）

令和7年度については、これまでの検討経過を踏まえてビジョンブックとして取りまとめを行い、地域が描くこれからの小金原を地域住民と共有していく予定であり、また報告したい。

（委員）

継続的に様々な取り組みをされて、非常にわかりやすいワークショップになっていると思う。引き続き取り組みをされていくということで期待しているため、また報告いただきたい。

- 2 近年の公共施設をめぐる状況について（意見交換）

事務局より、「資料2：松戸市の公共施設関連の状況について」「資料3：主要建設資材の価格推移および公共工事設計労務単価について」を用いて説明を行い、委員の意見交換を行った。

<主な発言>

（委員）

総合医療センター別棟の入札不調も価格上昇の影響だと考えるが、資材価格や人件費が上がっている状況の中で、松戸市の公共施設の計画で見直しや先送りなど、変更点はあるか。

（事務局）

総合医療センター別棟の入札不調に関して、もともと令和6年度と令和7年度の2か年で継続費予算を組んでいたが、先般の3月議会の補正予算において、令和6年度分の予算を全部令和7年度に先送りするという年度組み換えの対応を取った。

(委員)

その他、建設費や人件費高騰で、長寿命化や庁舎整備など具体的な工事開始などに影響していないか。

(事務局)

予算は単年度で編成するため、計画通りでない部分も一部出ているが、必要なもの、優先順位の高いものを、その都度見極めて新年度予算に盛り込んでいく対応を取っている。

(委員)

今後、工事費や人件費が下がる見込みもなく、むしろ上がっていくと考えられるため、計画段階でもその辺りを考慮して、計画の縮小や見直しの必要性も出てくると思われることから、今後も情報をいただきたい。

(委員)

二十世紀が丘消防署について、現地建て替えに着手とあるが、もう基本設計ができていて、これから建築に着手するという意味で捉えてよいのか。

(事務局)

基本設計が令和6年度に終わり、令和7年9月頃から解体工事を始める。建設については令和8年度からの2年間で、令和9年8月頃に竣工の予定であると報告を受けている。

(委員)

建設コストが下がることは考えにくい中で、大規模事業やライフラインの改修も今後見込まれる。全国的に計画の見直しや事業の選択といったものが非常に重要になってくる。勇気を持って見直ししないと事業が立ち行かなくなる懸念がある。

行政で働いていた経験からすると、単年度会計であることから長期的な予算の全体像が見えにくい。今後は総合的な長期の資金計画が特に重要になると考えている。例えば施設を新築する際には修繕の積立金のようなものを別予算として確保するくらいの形でないと、将来世代への負担が大きくなる。

大規模事業は目につきやすく、学校や公民館や図書館の外壁改修など、目立ちにくい部分は軽視されがちになる。施設の劣化による事故を防ぐといった、子どもたちや市民の命を守る改修工事が修繕として必要になる。施設の老朽化・劣化が今後進んでいく中で、大規模事業だけでなく改修工事の方にもしっかり予算をつけていくことをお願いしたい。

(委員)

他市の公共施設再編の委員を務める中で、学校の台風被害による修繕を優先させるため、庁舎の計画を一度休止して先送りしたケースがあった。計画を再開させるにあたり、どうしてもその年の予算が突出するためどう対応するかが課題となった。

2050年くらいまでの20年、30年先を見据えて、支出をどう平準化していくかを考えなければならない。いろいろな事業が出てくる中で、長期間のスパンで優先順位を決めて、安全がおろそかにならないように長寿命化などはある程度やっていかなければならない。

下水道の関係で地盤が落ちた報道もあるように、インフラの安全性を確保するこ

とも必要。今あるものが本当に大丈夫かどうかの確認にも意外と費用がかかるため、その予算をどうするかということも重要。

(委員)

事後保全よりも予防保全、という話はよくあるが、予防保全も時間経過保全と状態監視保全に分かれる中で、実際にはこの状態監視保全の体制をいかに構築するかが重要だと考える。

改修工事や再編計画の想定パターンが多すぎると作業量に対して成果が出にくくなる。状態監視保全を念頭に置きながら、コストや将来のことも考えた結果、再編や集約といった手法が出てくるといった手順書のようなものを組織の中でオーソライズすることが重要。

(委員)

LCC（ライフサイクルコスト）を抑える際、資材費や工事の人件費高騰も深刻な状況だが、施設を運営・維持管理していく上での人件費や委託費、光熱費などもあまり削れていない。省エネで費用を抑えるという話もあるが限定的なので、そもそもの施設数を減らす、効率化によって人件費や委託費を減らすといったことも考える必要がある。一方で公共サービスの質も落とせないなので、一度ハコモノとサービスを切り分けて、サービスを維持しながら集約化・複合化するといった手法もある。やはりある程度は施設を減らして縮小しないと難しいと感じている。新しく施設を作ること虽良いが、それが効率化に結びつかないと費用が増えて財政的に危険な状況になってしまうことを懸念している。

(委員)

学校の長寿命化に関しては毎年コンスタントに1、2校ずつやるのか。

(事務局)

計画としては年次であるが、実際には予算や建設費の兼ね合いも含め見極めていくことになる。長寿命化設計をした翌年度には工事を行う形で、計画的に進めていきたい。

(委員)

築年数で機械的に割り出すのではなく、審査や調査をして老朽化の状況を加味して計画しているということか。

(事務局)

はい。また、老朽化も大前提ではあるが、施設によって技術的な難易度も異なるため、そのあたりも考慮していると報告を受けている。

(委員)

既にあるとは思いますが、長期的な計画をしっかりと立てて進めていただきたい。

(以上)